

ラグビーボールであいさつ

～相手の捕りやすいボールを～

カテゴリー

歴史・意義

アスリート

多様性

日本人

国際感覚

ボランティア

伝統・文化

(その他)

校種	小	中	高	特	学年等	全学年	参加対象	児童	家庭地域	教職員
教科等	登下校時					時期・時間	随時			

1 プログラムのねらい

- 本市はラグビーワールドカップ 2019™のホストタウンである。日ごろからラグビーボールに触れる環境づくりを行っている。
- ラグビーボールのやりとりを教師と行うことで、目を見てのあいさつができるようにする。ラグビーボールを相手の捕りやすい場所に投げるようにすることで、相手のことを気遣って生活する態度を養う。

2 準備等

- タグラグビーボール（ゴム製のやわらかいもの）
- 手さげ等をもって登下校しない日に実施

3 取組の概要

- ラグビーボールを使って、キャッチボールをしながらあいさつ
 - ・職員が登校（下校）する児童にボールをパスしながら校門であいさつをする。目を見ながらあいさつすることを継続して指導する。

〈相手を見てあいさつをしている。〉



- ・一人一人の児童に行く。
- ・相手の気持ちを考えて行動できるよう学校生活全般を通して指導していく。ボールは「相手の捕りやすいところに投げる」

4 おすすめのポイント

- ボールなど、簡単な準備で指導を行うことができる。
- 児童一人一人と目を見ながらコミュニケーションをとることができる。
- 球技であれば、ラグビーボールを他のボールに置き換えて行うことができる。
- あいさつなど、生徒指導と結びつけて指導を行うことができる。